

# 御挨拶

宮司 須崎 裕

平成二十九年の輝かしい初春を迎え、御皇室の弥栄と世界の平和をお祈りし、併せて講中を始め崇敬者各位のご健勝とご発展をご祈念申し上げますと共に、平素のご厚情に心より感謝を申し上げます。

さて本年は、酉年式年大祭の佳節を迎えることとなりました。記念事業として、平成二十七年七月一日より進めて参りました社殿の彩色漆塗り替工事も一年五ヶ月の歳月をかけ、昨年の十一月二十二日に全て完了することが出来ました。これもご協賛賜りました講中・崇敬者各位をはじめ、工事関係者のご支援・ご協力によるものと深く敬意と感謝を表す次第であります。また工事の期間中は、ご参拝の皆様には大変なご不便ご迷惑をお掛けしましたこと、誠に申し訳なく心よりお詫び申し上げます。

三月二十六日には、完成した彩色鮮やかな社殿に関係各位をお招きして、竣工祭を斎行し、四月一日より五月三十一日までの二ヶ月間、式年大祭（御開帳）を執り行なって参ります。酉年は西の方位に位置し、運氣を取り（酉）込む金運の方位に当たることから、古来より、十二年に一度御神像として内陣に鎮まり普段は決して拝観することの出来ない蔵王権現像を外陣にお移し申し上げ、期間中多くの参拝者の方々にそのお姿を現し、示威を輝かせ給ひて、尊きご神徳を授けていただけるとの特別な年でございます。これに併せて、式年祭期間中「命柱」を建立し、御神像より結ばれた紐をとおして直接神様に触れ合うことの出来る触拝所を設置したり、樹齢四百年余の檜の御神木にて蔵王権現像を彫ったお守りの作成や特別な御朱印を配布するなど、種々な計画を致しております。また各地に伝わる郷土芸能のご奉納もお願い申し上げます。



この式年大祭が盛大に斎行されますよう、神職一同、鋭意努力を致して参る所存でございますので、どうぞこの機会に、多勢の皆様のご参拝をお待ち申し上げます。最後に申し上げますが、皆様方の益々のご多幸ご繁栄をご祈念申し上げます。平成二十九年二月 武蔵御嶽神社 宮司 須崎 裕

# 御嶽蔵王権現 御出御

平成二十九年 四月一日より 御出御



毎日祭（御嶽蔵王権現像ご拝観）執行のため、御本殿奥に鎮まります御神像にお出まし頂くため、三月八日早旦、「御嶽蔵王権現出御祭」が斎行されました。

宮司、祭員は前日より齋宿に籠り、精進潔斎を行い神事に臨みました。祭典の早旦は前日の曇天が嘘のように消え、晴々とし、凜とした空気の中つつがなく祭典を執り行う事が叶いました。

毎日祭執行中は、御参拝の皆様をより近くでお護り下さる特別な期間となります。ご本殿側には、大地に鎮座される神々の様に勇壮かつ麗美な命柱を建立し、触拝参拝所を設けました。

式年とは年月を定め、その節目毎に「再生」や「誕生」を繰り返すという神道の理念の一つとなる大切な行事です。御本社や境内地の生まれ変わりで無く、祭事に携わる神主、各種記念事業にお力添えを賜りました講中・関係機関の方々、御参拝くださる崇敬者の皆様、すべての皆様が御嶽神社の式年大祭を通じて、新たな自身への生まれ変わりを感じていただけたらと思います。



十二年に一度の酉年に行われる式年大祭。以前からこの大祭に對しての御嶽神社の方々の思いや意気込みを見受けており、約五年前から御岳山を撮り始めた私にとつては初となるため、この二〇一七年の春を待ち遠しく思っております。

そのような折、御嶽神社から一通のメールが届きました。その内容は、式年大祭毎日祭が始まる四月からの二ヶ月間、祭典風景や春の社殿のようす等、御岳山を良く理解している私にしか撮ることができない写真を撮って欲しいとのことでした。

長年、御岳山に通い撮影をしてきた私にとつては、とても有り難い言葉が。いまは、そんな大役を仰せつかり、嬉しい気持ちと同時に、心地よい緊張感に包まれております。

大切な式年大祭のもようや、二〇一七年の春の御岳山を心を込めて写真に収めようと思えます。

（写真・文 鶴巻 育子）

大口真神社裏の遙拝所から見る男具那の峰。陽が傾きかけたころは、逆光の光により淡い色のシルエットに。木々の向こうにぼんやりと浮かぶ姿を拜むと心が落ち着きます。

